 BHUTAN	学校名：東京都立雪谷高等学校 氏名：奈木 いずみ [担当教科：地理歴史科]	● 実践教科等：日本史B ● 時間数：3時間 ● 対象生徒：高校2学年 (選択) ● 対象人数：28人×3クラス
--	---	--

[1]単元名

近代日本を“幸せ”にしてみよう！

[2]単元の目的/目標(背景を含む)

[背景]

日本史Bの授業では、日本が開国以降、「富国強兵」「殖産興業」「文明開化」などのスローガンを掲げ、世界の「一等国」といわれた国々に加わるべく、近代化に邁進してきた姿を追ってきた。今回の授業では、その過程や、到達点である国の姿(1920年当時)を、歴史的必然ではなく日本の「選択」であると捉えさせたい。そのために、最近(といっても数十年前ではあるが)まで「鎖国」状態にあり、現在進行形で近代化を進めるブータン王国の事例との比較を考えた。

[目標]

- ブータンの提唱するGNH(国民総幸福量)を理解する。 【知識・理解】【関心・意欲・態度】
- GNHの9つの指標に照らして、日本の選んだ道への批評を加える。 【思考・判断】
- 現代の日本が抱える課題に向き合い、日本やわれわれ一人ひとりが何を選択すべきか、どう取り組んでいくべきかを考える。 【思考・判断】
- 授業の中で発見したことや、考えたことをグループの中で出し合い、一つの見解としてまとめる。 【関心・意欲・態度】【資料活用の技能・表現】

[3]単元の構成

時間	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【ブータンを知ろう・GNHを知ろう】 ・単元の目標を伝える ・ブータンの国づくりと、さまざまな「豊かさの指標」について紹介 ・国の発展を新たな価値観で考え直す	・この授業のテーマを提示 ・ブータン紹介(講義とクイズ) ・ブータンは「豊かな国」? ・フォトランゲージ(グループワーク) ・GNHに経済的豊かさは必要なし? ・宿題について ・今日の感想	パワーポイント 作業プリント 写真	作業プリントへの記述 話し合いへの参加の態度 発表の充実度 本時の感想
2	【近代日本を幸せにするために?】 ・宿題について、グループ内のほかの意見を共有する。 ・意見に基づき、GNH指標にてらした改善点を考え、明治政府に提案する政策をグループで考える。	・アイスブレイク“常識を突きぬけよう” ・GNHで近代日本の政策を分析せよ!(グループワーク) ・明治政府に政策提言せよ!(グループワーク) ・発表 ・今日の感想	パワーポイント 作業プリント	話し合いへの参加の態度 発表の充実度 本時の感想
3	【ブータンの光と影?】 ・GNHですべてうまくいっているのだろうか? ・ブータンのこれから ・これからの日本について考える	・桃源郷ではないブータン(講義) ・それでもブータンは一國で立とうとしている!(講義) ・武士道とGNH(講義)	パワーポイント 資料プリント 新聞記事	問題意識の高まり

[4]授業の詳細

1 時 限 目 : [ブータンを知ろう・GNHを知ろう]

～ブータンの近代化から、日本のこれまでの国づくりの成果とこれからの課題が見えてくる！？～

○ ブータン紹介

・講義形式でブータンの概要を説明し、生徒はワークシート([8]参照)の穴埋めをおこなう。

・「けっこう似ている日本とブータン」

“幸せの国”というイメージを持っている生徒もいるが、あまり馴染みのない国・ブータンに親近感を持てるよう、「意外と似ている」と思える要素をクイズ形式をまじえて挙げていく。「こんなに日本に似ている国があるとは知らなかった!」「興味が湧いた」との意見が多かった。



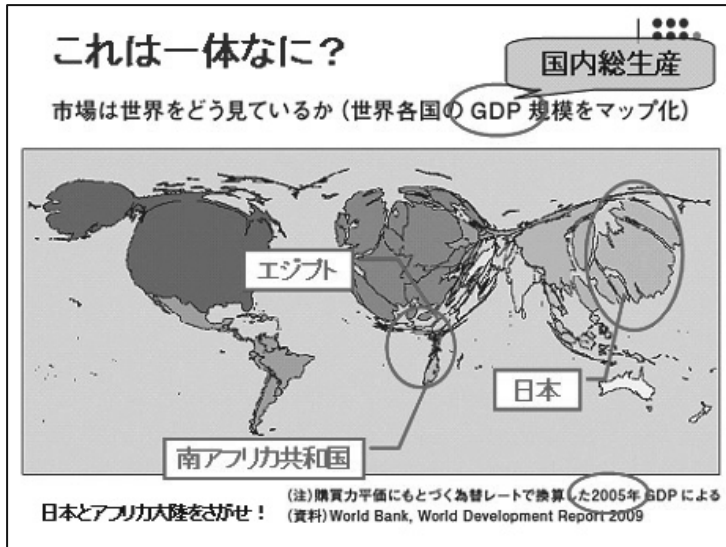
近代日本を
“幸せ”にしてみよう①

1954年、鎖国をやめた日本は
必死に、必死に近代国家になった。
いったい何のために?
どんな国になりたかったのだろうか?

ココがポイント!
 ブータンを扱うが、あくまでスタートとゴールは日本史におくことを教師も生徒も意識できるように初めにテーマを明示し、それがぶれないよう心がけた。

○ ブータンは「豊かな国」?

・一般的な世界地図と、主題図「市場は世界をどう見ているか」を比較し、日本とアフリカ大陸を探索。



▼フォトランゲージの様子



他の先進国と並んでみると描かれている日本の姿に「日本すごい!」という意見、他国との差に驚く声が上がった。

・さまざまな豊かさの指標と国別ランキングを紹介する。

GDPランキング(3位日本、166位ブータン)・HGIランキング(12位日本、140位ブータン)・GNHランキング(8位ブータン、90位日本)のデータが提示され、それぞれの指標がどのようなデータに基づいて作られたものかを考えた。

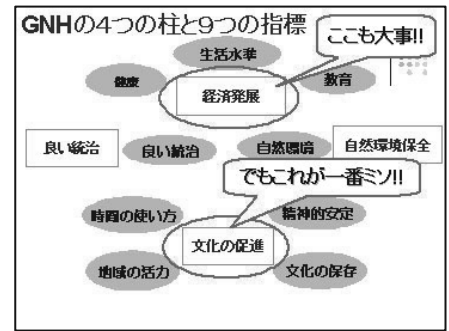
○ フォトランゲージ(グループワーク)

4～5人のグループを作り、ブータンの写真([8]参照)を見て気づいたことを話し合う。グループで出された意見を発表した。その後、教師からの補足説明で、ブータンの風土や産業、民俗や生活を紹介する中で、GNHに基づくさまざまなブータン政府の政策を別の写真をまじえて紹介した。

例)・棚田と山林の風景→国土の60%を森林とすることを憲法で規定

- ・市場での野菜売りのおじさん→日本の農業の技術支援の歴史、インドからの支援や輸出入
- ・ホームステイ先の仏間→国境であるチベット仏教の重視やおもてなしの心
- ・夕方のメモリアル・チホルテン→チベット仏教と仕事と時間の使い方
- ・ティンパーの手旗信号→景観保護、スズキ・マルチ・インドアの子(インド経済との結びつき)
- ・政治経済の授業→GNHを掲げる教育、国王の写真、英語授業、母国語保護の問題

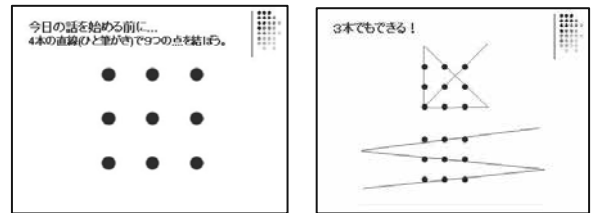
○ GNHに経済的豊かさは必要なし？
「経済的豊かさではなく精神的豊かさ」に基づく指標といわれているGNH。ブータン政府の政策は経済的豊かさの向上を目指していないのだろうか？という疑問を投げかけ、GNHの4つの柱と9つの指標について紹介する。



○ 宿題
「明治政府の政策を9つの指標にあてはめる」
いままでの日本史の学習を振り返って、明治政府の政策から、GNHの9つの指標について「+のもの」、「-のもの」を考え。ワークシート〔8〕参照にまとめてくる。

2 時限目：【近代日本を幸せにするために？】

○ アイスブレイク
今日のグループワークでは「常識を突き抜けた意見を出す」を目標に、とアドバイス。
(今までの常識は植民地化されない日本、「富国強兵」「殖産興業」「文明開化」をスローガンにがんばってきた明治政府の近代化政策である。)



○GNHで近代日本の政策を分析せよ！
宿題で書いてきた政策を意見交換しながらグループ内で共有する。自分が書いていなかった政策、同じ政策を別の指標や異なる評価（+）で記入している場合、グループ内で理由を述べ合い、赤ペンで書き足すように指示。
宿題がほとんどできていない生徒もいたが、必死に教科書を開いて政策を書き込んだり、メンバーの意見を聞いたりして表を製作することができた。
製作した表から、GNH指標では明治政府の政策にどんな要素が足りないのかを考えてみるよう指示する。

グループワーク①
自分の書いてきたものに他の人の意見を追加する

-	GNHの指標	+
	生活水準	
	健康	
お金が掛かる労働力とられる	教育	字割
	良い統治	
	自然環境	
神格分離令	文化の保存	「字割の入り方みんなが読める通じた人目録案」
お中や秋の参詣された？	精神的安定	
	時々の使い方	
	地域の活力	

★ 追加は赤字で！ 近代日本に足りないもの、分析できました？

○ 明治政府に「日本のGNHを高める政策」を提案せよ！
グループワークで、明治政府のメンバーになったつもりで一つの政策を考える。明治維新が、「富国強兵」や「殖産興業」、欧米列強に追いつかねば！といった目標ではなかったら、どんな国づくりをしたのだろうか？という仮定で、具体的な政策を作った。
各グループ初めは困惑していたが、「どんな国になったら国民が幸せになれる？」「どんな国に住みたい？」という視点で考えればいいんだとアドバイスすると徐々に意見が出るようになった。

グループワーク②
明治政府になって考える
「富国強兵」「殖産興業」「文明開化」ではない視点で・・・

日本のGNHを高める政策を提案せよ

説明とその理由を発表するよ

○ 発表
グループごとに考えた政策について、具体的な内容とその制度が必要だと思った理由を発表する。
〔政策の例〕

- ・平和宣言（戦争をしない、徴兵もしない）とシエスタ
- ・総理直接選挙法（総理大臣を直接選挙で選ぶ）
- ・薬の支給（未成年無料、伝染病に限り成人にも適用）
- ・農民さんに土地あげますよ政策（地主の土地を分配）
- ・ゆとり教育（子どものときはのびのび育つ）
- ・給付金制度（貧しい人でも豊かな生活ができる支援）
- ・減税・戦費削減（戦争ではなく国民のためにお金を使う）
- ・オリンピックを東京で開く（国際交流と日本の活性化を目指す）
- ・ファミリー法（家族との時間を大切にする）
- ・ハローワーク制度（みんなに安定した仕事、工場法みないにならない）

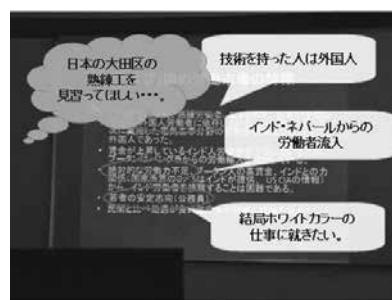


▲発表の様子

3 時限目：【ブータンの光と影？】

○ 桃源郷ではないブータン（講義）
教師が研修で見てきたブータンの姿について、まだまだ課題があること、政府がその問題に取り組んで

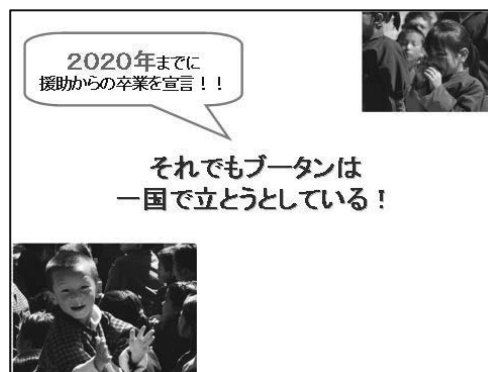
いる現状を紹介。それでもブータンは一国で立とうとしている(被援助国から卒業しようという具体的目標)、という展望を示す。



○ これからの日本を考える

「武士道とGNH」という文章を紹介。

明治政府が取り組んできた国づくり、ブータン政府が取り組んでいる国づくり、それを踏まえてこれからの日本の国づくりはどのようなものであるべきかという疑問を投げかけて授業を終了した。



[5]児童・生徒の反応/変化

○ 1 時限目

- ・「日本と、景色や人の顔が似ていて驚いた。豊かな自然が多く、日本の田舎のように思えた。“世界初の禁煙国家”素晴らしいと思った。」
- ・「クイズはすべて予想が違っていました。GDP の地図は日本が大きくてアフリカが小さくて、世界にはすごい差があるのだと改めて感じました。」
- ・「フォトランゲージが楽しかった。1 枚の写真からいろいろなことが知れた。ブータンに行きたくなった。」
- ・「日本にもブータンにもそれぞれよい所があると思うので一概にどちらが良いとかは言えないけれど、ブータンのような幸せの国でもよいなあとと思った。」
- ・「ブータンってすごいね。日本だとこれはできないだろう、って政策もあるけれど真似した方がよい政策もあったから日本も見習った方がいい。」
- ・「ブータン国王は来日したときから気になっていたので今日の授業はすごく楽しかった。ブータンと比べると、現在の日本という国の在り方について考えさせられる。日本を胸を張っていい国だと言えるようにしていきたい。」

○ 2 時限目

- ・「近代の日本の制度を現在の視点から見直し、改善点を見出す授業がとてもレベルが高くて面白い授業だなと感じた。日本が凄まじい早さで近代化を遂げたのはすごいことだと思うけれど、GNH(国民の幸せ)を考えたときに改善できたことが、皆それぞれ個性的ですごく面白かった。家族との時間を共有する『ファミリー法』が、一番当時の日本には必要だと私は思う。」
- ・「ブータンという、行ったことのない国の情勢を基に、日本の在り方を考えるきっかけになった。国の方針や国民の意識次第でいくらかでも国をにぎやかにしたり、幸せにできるような気がした。自分がこれからの日本を考えるために、世界の国の情報をもっと知っておくべきだと思った。」
- ・「いろいろと政策について考える良い機会になりました。どのような政策でどのように社会を変えていくというのは思ったより難しいことだなと思いました。」
- ・「GNH を高める政策を考えるのは簡単なことではなかった。しかし F さんのぶっ飛んだ意見と E さんの的確な意見とが見事にマッチして素晴らしい政策をつくることができた。」
- ・「日本をよくしようと政策を出すのは自由すぎて逆に絞るのが難しかった。」
- ・「私にはいま日本が何をしたら良くなるのかわからないけれど、今回の選挙で日本が変わっていったらいいと思います。まず投票しないと何も言えないと思うので、20 歳になったらちゃんと行きたい。」
- ・「政策を考えるグループワークがおもしろかったです。班によっていろいろ考えることも違って、いろいろな意見を聞くことができました。他の人の話を聞いてなるほどと思ったり、そんな政策があったらいいなと思ったりしました。この授業でたくさん“考える”ということができたと思います。」

「自分たちの班の政策は“減税”だったけれど、逆に“増税”したらヨーロッパのような幸せな国になっていたのかなって思ったりしました。」

○ 全体を通じて

「今回、ブータンのGNHについて考えていったが、日本がそれを行うには大きくなりすぎてしまったのではないかと思います。ですが、GNH が世界各国に広まることができれば、日本もそれに参加したいという運動も発展していくのではないかと思います。」

「GNHは国の志としては素晴らしいと思うが、たとえば労働が8時間とかだったら明治時代の人びとが頑張って労働して産業革命を起こしたりして発展したように、欧米に並ぶ先進国にはならないと思った。現代の日本なら、すべてを実行しなくても参考にしている所がいっぱいあると思う。」

「ブータンの国民総幸福量という考えはすごくうらやましく、いいなあと思いました。そこにはいろんなデメリットがあることもわかりました。そう考えると、『幸せ』と『苦勞』というものはセットになっているので、大変な思いをするからこそ幸せを感じる瞬間があるのだと思いました。今の日本人も、何か自分自身で活動し、『苦勞』というものを味わえていないのではないかと感じた授業だった。」

「ブータンという国は私たち日本人とは少し違った考えを持っているのかもしれない。そんな中で、お互いを理解することができればより良い方向に向かうと思った。」

[6]授業実践の成果と課題

ブータンでの研修成果を自分の専門科目の中でどのように活用するか非常に苦慮した。日本のこれから、世界のこれからを考える上で、示唆に富む国だと感じたが、その分、伝えきれなかったこともたくさんあり、自分の力量不足を感じる所が大きい。教科の枠の中での授業時間確保には限界があるのでこのような「ブータンの授業」という形はとれないが、これからも違った切り口で研修成果を生かせる授業作りを模索していきたい。

一番の成果は、今までの学習を踏まえ、ブータンという新しいフィルターをヒントに自分なりの考察や問題意識を持たせた生徒が多かったことである。それは、前述の感想が「楽しかった」「いいと思った」から、徐々に多様で自由な「自分の見解」になってきているところに現れているように思う。また、意見交換の面白さを経験し、ともかくインプットになってしまう普段の授業から、アウトプットする授業になっても積極的に取り組むことができた。日本史の授業の中で、世界に目を向けるきっかけとなったと感想にあったのも成果だと感じている。

[7]参考文献(引用文献・参考資料)

NPO法人全国国際教育協会 『「共に生きる」をデザインする グローバル教育 教材と活用ハンドブック』メディア総合研究所 2012

[8]使用教材(写真/図などの実物)

添付1 ワークシート1(表)

(裏)

日本史特別講義用プリント-01 2年 組 氏名

「近代日本を『幸せ』にしてみよう！」

★ 今日のキーワード (カッコ内に日本語を入力しよう)

ODA () GDP () HDI () GNH ()

★ ブータンの概要

ブータンはヒマラヤの尾根として知られる() 国家。() 世紀後半まで() に近い政策だったこともあり、地球上のほとんどの場所であつてしまった手付かずの美しい自然と、自然発露に基盤を置いた() 的な生活文化が残っている。() とインドの2大國に挟まれているが、ネパールと違ってインド文化の影響は少なく、() 文化圏に属す。他のチベット文化圏が近代化の波に流される中、ブータンは広大な仏教圏、チベット文化圏の文化と伝統を伝える。()、乗用車、電磁、() が一般に普及し始めたのは21世紀に入ってから。

★ じっくり観ているブータンと日本

どっちがブータン？

A B

ブータン人はどれだ？

どうして 国を振りかざしてはならないか、政治の経済、外交、利益も考えよう！

国民の幸せと第一に考えよう！

また、そうして考えたら日本も自国を大事に考えよう！

★ 豊かさの基準 日本とアフリカ大陸を比べ

市場は世界をどう見ているか(世界各国のGDP規模をマップ化)

(注)購買力平価に基づく指標として2009年GDPによる(資料World Bank, World Development Report 2009)

★ グローブワーカー フォトリポート

のどろろと歩いている。 毎朝の朝ごはんがおいしい。

私たちがいる。 毎朝の朝ごはんがおいしい。

毎朝の朝ごはんがおいしい。 毎朝の朝ごはんがおいしい。

毎朝の朝ごはんがおいしい。 毎朝の朝ごはんがおいしい。

★ 今日の感想

ブータンには、自然の恵みと文化の豊かさがあふれている。日本は、自然の恵みと文化の豊かさを大切にしよう。

GNHの4つの柱と9つの指標

精神 物質 教育 文化

良い生活 良い健康 良好な教育 良好な環境

時間的豊かさ 文書の豊かさ 精神的健康 文化の豊かさ

ワークシート2

添付2 民族衣装

2年 組 氏名

☆ GNHの9つの分野で明治政府の政策を分析する

分野	指標	+
郵政の導入・貯蓄銀行条例	・生活水準	・郵政の導入・蓄積貯蓄・日本銀行・日本郵政の設立 ・貯蓄貯蓄・貯蓄貯蓄
治安警察法	・健康	
義務の導入・徴兵令	・教育	・学校・学校・義務教育
二重国籍・帰化令・国籍改正条例 ・保安条例・国籍法	・良い統治	・国籍法・帰化令・保安条例 ・国籍法・帰化令・保安条例
新選組・学生地立制	・自然環境	・新選組・学生地立制
北海道旧土人保護法	・文化の保存	・文明開化の文化保護法・旧土人保護法
	・精神的安定	
改正民法	・時間の使い方	・民法改正・お祭り・外国人
官制換	・地域の活力	・官制換

☆

★ハローワーク制度
(国民全員に安定した仕事を提供する。また、工場法以上に厳しい制度でなく、しつこくした制度を定める。)

★感想
上の表に明治政府の政策を分析して、授業した時には気づかなかったところの政策を見直せることが出来た良かったです。
また、+の政策と-の政策をアタラシく公表している所が政府のやり方と正しいと思えました。
当時の明治政府もアタラシくGDPやGNHを重視していたら、今の日本はこんなに発展してあつたらしくなっていたと思います。



添付3 フォトランゲージで使用した写真



[9] 教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

これまで、校外での国際理解教育の活動に携わる機会があったが、なかなか学校現場で、実際の授業としてその活動を生かす機会をつくる事ができなかった。今回、教師海外研修に参加し、教科内での実践を行う機会にめぐまれ、初めて現場に生かせる活動ができた。なぜもっと早くやらなかったのだろう、と今にして思う。

実際の授業づくりは、「こんなにも“JICA ならではの経験”をしたのだから」と、それをどう生かしたらいいのか悩みに悩み、非常に苦しかった。心残りもいくつかある。しかし、なんとか一つのかたちになったのは、研修メンバーのアドバイスや意見交換によるところが大きい。この研修での経験や出会いはこれからも大切に、今後の教育活動に生かしていきたい。まだまだいろいろとできる気がする。